

# 令和3年度 研修計画

## 1 研究主題

互いのよさを認め合い関わりながら学ぶ子どもの育成  
～聴いてつなげて話し合っ、考えを深める授業づくり～

## 2 主題について

本校では、昨年度、研究主題「学び合いに喜びを感じる子どもの育成～聴いてつなげて話し合っ、考えを深める授業づくり～」のもと、授業改善に取り組んできた。児童が意欲的に考え、お互いの発言をよく聴き、発言をつなげながら考えを広げたり深めたりして、みんなで学ぶ楽しさに喜びを感じる姿を目指してきた。その結果、自分の考えをもち、友達の発言をよく聴き、発言をつなげて話し合うことが少しずつできるようになってきた。しかし、新型コロナウイルス感染を防ぐため、ペア学習やグループ学習を十分に行うことができなかつたこともあり、考えを広げたり深めたりする学び合いは、まだ十分とはいえない。

そこで、今年度は、研究主題を「互いのよさを認め合い関わりながら学ぶ子どもの育成～聴いてつなげて話し合っ、考えを深める授業づくり～」とし、児童が課題を自分事として捉えて自分の考えをもち、お互いの異なる発言のよさを認め合い、発言をつなげながら関わり合い、自分の考えを広げたり深めたりして学びを実感する姿を目指していきたい。それぞれの考えのよさを認め合い、発言をつなげながら学び合いを深める授業づくりをすることで、学校目標である「笑顔と勇気で 明日をつくる～たのしい うれしい みんなの学校～」を具現化し、一時間一時間の学びを一人一人が楽しいと感じ、笑顔でみんなとともに学びを深めながら自己有用感を育成できるよう、研究を推進していきたい。課題を追究していくことを通して、分かる喜びやできる楽しさを感じ、新たな学習意欲へとつながる自分への気づき、そして友達と意見を交流させることで学び合いのよさを実感し、学び合いの意義や価値を感じることができないのではないかと考える。子ども自らの学び（自ら考え、判断し、表現する）と友達との学び（認め合い、比べ合い、質問し合い、話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりする学び合い）のバランスを図り、確かな力としていきたい。児童が互いに言葉でつながって学び合う中で共に向上しようとすることで、探究心や学ぶ意欲を高め学び合う喜びを感じ、主体的に学習に取り組む児童の姿を目指して、本主題を設定した。

## 3 研究の仮説

- (1) 児童に働かせたい「見方・考え方」を明確にした単元構成や授業展開を工夫することによって、課題を見つけ自ら考えようとする意欲をもつ児童が育つであろう。
- (2) 話し合いの場で、教師が発問や問い返しをしたり児童の発言を価値付けたりすることによって、話し合いながら考えを広げたり深めたりする児童が育つであろう。
- (3) 今までの学びとのつながりや自己の変容を振り返ることによって、友達と学び合う楽しさを感じ、自分の学びを実感できる児童が育つであろう。

## 4 目指す子どもの姿

- (1) 課題を見つけ、「考えたい」「解決したい」と思う子ども
- (2) 友達と関わり合い、考えを広げたり深めたりする子ども
- (3) 友達と学び合い、「分かった」「できた」と感じる子ども

## 5 研究の重点

児童が考えを広げたり深めたりする指導の工夫

- ・「見方・考え方」を明確にした単元構成や授業展開
- ・既得の知識と他者の知識や思考（言葉）をつなげる学び合い
- ・自己の変容の自覚のための振り返り
- ・ICTを活用した効果的な指導

## 6 共通実践事項

### (1) 「秋田の探究型授業」の基本プロセスをベースにした授業展開

#### ①課題意識を高める導入の工夫

- ・子どもの問いを生かした課題（めあて）を設定する。
- ・目指す児童の姿に向かうことができるように、課題（めあて）とまとめの整合性が図る。

#### ②ねらいの達成につながる学び合い（聴く・つなげる・話す）の充実

- ・聴き方（自分の考えと比べて聴く）や話し方（友達の考えを受けとめる・つなげて話す・友達の考えを取り入れて自分の考えを見直す）を提示し、対話力を高める。
- ・ペアやグループの話合いでは、自分の考えと友達の考えを比較検討し、友達に「問い」を発したり、友達へ説明したりできるようにする。
- ・学級全体の話合いの場面では、児童の考えを広げたり深めたりすることにつながる発問や問い返しをしたり児童の発言を価値付けたりする。

#### ③一人一人が学びを実感できる振り返り

- ・振り返りの視点を明確にし、今までの学びとのつながりや自己の変容を自覚させる振り返りにする。

### (2) ユニバーサルデザインの視点による支援の工夫

#### ①効果的な情報提供になるように学習内容や考え方・資料等を図解や画像などの視覚情報として示す。（視覚化）

#### ②学習目標や内容を絞り込んで授業展開をシンプルにする。（焦点化）

#### ③「分かった」「できた」が実感できるようにまとめ方のモデルを提示し、理解を揃える。

（共有化）

### (3) 自己の変容の自覚のために

#### ①板書とノートの整合性を図り、学年や教科に応じて系統的にノート指導を行う。友達の意見を聴き、メモするなど、考えを深めるノートづくりの指導をする。

（ノートに記録する、メモを取るなど、学習活動の中に「書くこと」を意図的に位置付ける。）

#### ②発達段階に応じて、振り返りの視点を具体的に示す。

### (4) 授業以外における「学び合う」力の育成

#### ①詩の暗唱を聴き合ったり、詩の意味を考えたりする実践を通して、表現する力の育成を図る。

#### ②「読書の時間」（10分間）を通年で設定し、読書活動の充実を図り、言葉の土台をつくる。

（「おすすめの本10冊」の選定と読書コーナーの充実、読書通帳への記録）

#### ③国語辞典を学級に常備し、「辞書引き学習」で様々な言葉に触れさせ、語彙を増やす。

#### ④本校の特色である全校音楽やミュージカルの実践を通して、豊かな表現力の育成を図る。

## 7 教科の研究主題及び重点

教科等	研究主題・重点
国語	『言葉に着目して、進んで考え、伝え合い、考えを深める子どもの育成』 ・課題解決に向けて見通しをもてる単元構成と授業展開の工夫 ・「言葉による見方・考え方」を働かせ、互いの思いや考えを伝え合う場の設定と、思考を深める学習形態の工夫 ・目的や意図に応じて、図書や資料から必要な情報を取り出し、活用できる主体的な学びの保障
社会	『社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察する子どもの育成』 ・資料や体験から、驚きや問いをもたせ、学習課題につなげる導入の工夫 ・調べたことを論理的に説明したり考えたことを基にした話し合いを取り入れたりする言語活動の充実 ・新たな問いを見出すために、社会的事象の特色や意味を考え、自分の言葉でまとめ振り返る活動の充実
算数	『数学的な見方・考え方を働かせ、主体的に問題解決をする子どもの育成』 ・課題提示の仕方や振り返りの工夫 ・学び合いの場を大切に、筋道を立てて考えを深め、主体的に問題解決ができる授業展開の工夫 ・基礎的・基本的な技能の定着を図るための計画的なドリル学習等の工夫
理科	『観察・実験の結果に基づき、科学的に思考したことを適切に表現する子どもの育成』 ・気付きや疑問を顕在化し、子ども自ら問題を見いだすことができる場の設定 ・根拠のある予想や仮説を基に、観察・実験の結果と比較して考察できる学習展開の工夫 ・互いの考えを検討して改善したり、総合的に考えたりする場の工夫 ・理科を学ぶことの意義や有用性を実感し、獲得した知識や技能を活用・発揮できる活動の工夫
生活	『具体的な活動や体験を通して、人や自然との関わりを深め、気付き考える子どもの育成』 ・一人一人の思いや願いを育み、主体的に活動し、表現できる支援の工夫 ・気付いたことを基に考えることができる多様な学習活動の工夫
音楽	『自分の思いや意図をもって感じとったり考えたりしたことを表現する子どもの育成』 ・「音楽的な見方・考え方」を働かせて、表現したり味わったりすることができる教材や指導の工夫 ・自分なりの感じ方を表現や鑑賞に生かしながら、感じ方や考え方を互いに深め合う学習過程の工夫
図工	『想いをふくらませ、自分らしい方法で表し、造形活動を楽しむ子どもの育成』 ・形や色、イメージを豊かに捉えて発想を広げ、自分の思いを表現できる題材の工夫 ・感じ取ったことを伝え合う場を効果的に組み入れた学習過程の工夫
家庭	『具体的な実践を通して、豊かな家庭生活を工夫しようとする子どもの育成』 ・学んだ知識や技能を生活の中で活用できるための実践的・体験的な学習活動の工夫 ・つくる楽しさや活用する喜びを味わわせたり、思考を広げ深めたりするための資料や教材教具の工夫
体育	『運動の楽しさや喜びとともに、体力の向上に果たす役割の視点から、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方ができる子どもの育成』 ・運動の特性や楽しさを実感するための知識と技能を関連付けた指導の工夫 ・考えの広がりや深まり、自分や友達の成長を実感する視点を明確にした話し合い活動や振り返りの工夫
総合	『自主的・協働的・探求的な学習を通して、学習の基盤となる資質・能力を身に付け、実生活・実社会の中で活用しようとする子どもの育成』 ・興味、関心、探究心をもって、自分なりの課題を見いだす学習過程の工夫（課題の設定） ・課題解決や探究活動に必要な多様な学習環境整備と支援（情報の収集） ・課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える学習過程の工夫（整理・分析） ・協働的な学習活動や双方向の交流、自分の考えを分かりやすく表す方法や場の工夫（まとめ・表現）
外国語 外国語 活動	『自分の考えや気持ち、事実などを進んで伝え合おうとする子どもの育成』 ・コミュニケーションを図る楽しさを体験し、言葉の面白さや豊かさに気付かせる活動の工夫 ・相手や他者に配慮しながら、伝えたい、聞きたいという思いを高めることのできる題材の設定 ・考えを整理したり繰り返し表現したりできる活動の展開の工夫